

FRIENDS

 **The Friendship Force of Saitama** 会報 第72号 (2008)



＜ラトビア、ニュージーランド、埼玉クラブ、皆でフェアウエルダンス＞

感激の再開

LD：岡田一夫



＜挨拶する岡田さん＞

である“Song & Dance Festival”に照準を合わせた、リーガ・クラブとの感激の再会が実現しました。

前日にコペンハーゲン入りしてその日の夕方と当日の午前中、慌ただしく旧市街の見所を駆け巡り、夕刻に到着したリーガ空港で出迎えてくれたあの顔、この顔と出会ったとき、もう3年の歳月は吹き飛んでいました。

その足で早速、会長の Raimonds・Irena Gedertsons 夫妻の、広大な庭を持つ邸宅で行なわれた“Meet & Greet Party”に駆けつけました。先にリーガ入りしていた15名のニュージーランドのタウポ・クラブのアンバサダーも続々と集まり、

しばし数々の美味しい料理に舌鼓を打ち、ドリンクで喉を潤しながら歓談のあと、3クラブ合同の“Exchange”の幕開けとなりました。

この日から10日の“Farewell Party”と最終日の11日まで、1万人以上の参加者によるパレード・大合唱・団体民俗舞踊など、とてもスペクタクルな場面にも圧倒されながら、連日いただいた数々の、心温まるもてなしには本当に感謝の言葉もありません。

僅か20数家庭の小さなクラブながら、有名なフェスティバルに合わせて、総勢29名という大人数の受入れを実現するには、さぞ大変なご苦労や全会員の協力、用意周到な準備があったことでしょう。そのことを肝に銘じつつ、参加者14名を代表して、改めてリーガ・クラブ全会員の皆様に心から感謝する次第です。

未筆ながら、3年前の我が家のもてなしに比べ、毎日とことん精力的に尽くしていただいたホスト・ファミリーの Uldis・Vita Briedis 夫妻とお嬢さんの Ieva に深くお礼申し上げます。

ラトビア渡航特集

ラトビア渡航日程

- 7月4日 成田出発
 5日 ウェルカムパーティ
 6日 フリーデイ 歌と踊りの祭典
 7日 市庁舎見学 リガ市街見学、
 弦楽器“KOKLE”コンペ見学
 8日 フリーデイ
 9日 バスツアー “Turaida Castle”
 “The Tomb of Turaida Rose”
 10日 フェアウェルパーティ
 11日 フリーデイ
 12日 リガ出発



7/5 すばらしい文化を持つ誇り高きラトビア

池田完之・尚子

今回は小生にとって初めての欧州で、かつ殆ど知識の無いバルトの小国ラトビア、しかも5年に一度の音楽祭にニュージーランドFFと同時訪問というタイミングで、我々のホストのヴィータ・ウルディス夫妻と17歳の娘のイエヴァから大変暖かいもてなしを受けた上 貴重な体験をした。

その第一は、地域別の色とりどりのコスチュームを着てラトビア中から集まった数千人のフォークダンスや1万2千人の聖歌隊による大合唱は我々の想像外のものでまさに圧倒的なものであったし、また これも我々が想像も出来なかった ヴァイキングの時代から数えると千数百年にわたる侵略と略奪の歴史を乗り越えて 自由と独立を回



<ラトビアの祭典>

復した誇りと団結を 随所で折々垣間見ることができた。

更に国の中で最も高い丘が4百メートル弱という肥沃な国土をもつ農業国だが、フラットな地形であるがゆえに地球温暖化がこのまま進めば2050年には国土の大半が水没するとの危機感から世界でも対策に熱心な国として上位にランクされ活動中とのことであった。

以上 今回は ラトビアの観光に加え文化・歴史・政情など学ぶことも多く、かつ ホストの皆さんやニュージーランドFFの方々と共に過ごし、共にダンスすることで直接 触れ合うことが出来、大変有意義なFF交換だったと思います。



<ラトビアの祭典>

7/6 祭り・バルト海・バレンティナ家

ブラボー！！

小林恵美子・新井ミキエ



<Dzive 誌に掲載されました>

ラトビアと聞いて、どこにある国かしら？と地図を開けてみました。

初めて訪れた国は、5年に1度の歌と踊りの祭典に湧いており、国民が1つになった、想像していた以上のスケールで感動しました。

1クラブ20名から50名以上の、580団体がプラカードを持って街を誇らしげに行進する姿は圧巻でした。クラブの名前を1つ1つ教えてもらい、我々3人が大声で叫んだ所を雑誌の記者に写真を撮られ、それが記事になり、その雑誌をヴァレン

ティナが直ぐに3冊日本に送って来ました。純粋な心を持った家族愛に溢れた家族で、両親、長男夫婦、アグネス、アイワズ（この20歳の青年が好男子でイケメンというニックネームを付けました）犬2匹と猫1匹の大家族でした。ママのヴァレンティナの笑顔は最高です。

3年前に我が家(新井)に来てくれ、今回の交換は、期待以上に楽しいステイでした。毎晩2時頃に寝るといふ、笑いの絶えない1週間でした。バルト海のサンセットを9時過ぎに見た後、10時過ぎまで泳いだ事。毎日がミステリーツアーで、堀内さんグループと、'今日はどこに行くのかしらね、'とバス(ワゴン10名乗り)の中で話しました。サウナの後、近くの湖で裸で泳ぐを3回繰り返し、心身共にすっきりした思い出は一生忘れられません。コペンハーゲンでトラブルに遭い、仲間の助けで何とか切り抜けられました。

あの時の皆さんの温かな一言一言は、忘れることが出来ません。

皆様本当に、ご心配をお掛けしました。

7/7 市内巡りと伝統楽器によるコンクール鑑賞

浜 敬子

ニュージーランドのクラブと一緒に英語ガイドさんに市内を案内してもらった。英語が充分聞き取れない私にとってはガイドブックによる予習が欠かせないものとなった。ラトビア、リーガの歴史から建造物の歴史や逸話まで。

市庁舎では庁舎で働く女性から市のガイドラインを案内してもらい、旧市街へ出る。市庁舎を出るとすぐ目の前に、2000年に再建された壮麗なブラックヘッドのギルドがある。正面外壁には文字盤の青が印象的で精巧な大時計や4つの神々の像が飾り付けられ、当時栄えた商人組合の社交場にふさわしい。

教会群ではリーガ大聖堂、聖ペテロ、聖ヨハネ、聖ゲオルグ、聖ヤコブの教会を巡った。

高い塔の上に金色の雄鶏が輝くリーガ大聖堂は市のシンボルでもあるようで、ドーモ広場はいつも大勢の人で賑わっているらしい。夜には石に顔を映し出してメッセージを送る Speaking stone を見に、地方から歌やダンスの祭典に来た人達が大勢訪れていた。美しいステンドグラスや古いパイプオルガンも有名である。

最も高い塔を持つ聖ペテロ教会はてっぺんの雄鶏に逸話があり、聖ヨハネ教会もまた中世らしいエピソードが残っている。

ラトビア人の商人の家として、家の屋根両端に猫の象がある、猫の家がある。当時のドイツ人ギルド社会に猫の向きで反抗して見せたという。猫の姿がかわいい。

一般住宅として、三人兄弟と呼ばれる建物が残っており、建設当時の時代が反映されていて面白い。

また、リーガはかつて城壁で囲まれていたといい、スエーデン門と呼ばれる城門や当時の城壁の一部を見ることができた。

旧市街と新市街の境には大きな公園があり、公園の中心の大通りには、3つの星を高く掲げる女神の像のあるラトビア自由祈念碑が立っている。約3時間のツアーも終わりコンサート会場へと向かった。

会場内は満員でしばらく待った後、やっと入場できたものの、休憩時間となった。が、次のグループのリハーサルだったため演奏を聴くことがで

きた。小さなハープを横にしたような楽器 KOKRE は指では優しい音色、ピックでは張りのある音色を響かせ、哀切あるメロディーにもリズムカルなメロディーにも聴き応えがあった。

レストランでピンクスープなどいただき、ニュージーランドのクラブの方と別れ、自由行動。ショッピングの方が多かったかな？私は池田夫妻、岡田氏と共にリーガ大聖堂の中を見物。6時にホストの迎えがあり、その後、イリーナ家とバレンティナー家はワイルドなサウナ体験に出かけたのでした。ホストが変わったと空港に着いてから聞かされ、ちょっと焦りましたが、おかげで賑やかな交流になりました。

7/8 川辺をホストとサイクリング

児島 正彦・英子



<バルト海に遊ぶ>

大きな家の玄関の前で手を広げて笑顔で迎えてくれたホストは3年前EDとして来日したIrenaでした。彼女は会長でもあり私達4人を受け入れてくれました。ホストの家は大きく自然一杯の中で、近くの川では釣りをしたり、泳ぎをしたり、水上スキーをしている人々がいるリゾートライフを楽しめる所でした。

5年に1度の祭典、ラトビアフェスティバルはパレード、ダンス、オーケストラと白夜の中遅くまで続きすばらしいものでした。是非見せたい、見てもらいたい、ラトビアの人たちの気持ちが見ている私達にも伝わりこのチャンスが私達クラブに持てた事がラッキーでした。

スティして3日目のフリーディでは3年前我が家に泊まったKarlisと仕事の合間に会うことができ私達を彼の職場でもある議会等を案内していただきました。事前にパスポートナンバーを提出しセキュリティチェックを受けての事でした。

(日本で言うならば国会議事堂のようです)

その後旧市街でショッピングをそれぞれ楽しみ、リゾート地Jurmalaに行きバルト海に足を入れ日本の反対側にいることに感激しました。ラトビアは魚の燻製が有名で専門店ですれらを買ってその近くのレストランでIrenaから食べる順序を聞きながら8種類の燻製を食べお腹が一杯になり、帰ってからRaimondsとマウティンバイクに乗り近くの川辺をサイクリングしてきました。暗くなるのが11時過ぎですから9時ごろでもまだまだ明るく一日がとても長く沢山楽しむことができました。

ラトビアクラブは20家族の少ない会員の中、同時にニュージーランドクラブも受け入れし大変だったと思います。そのニュージーランドの人達の中に来年埼玉クラブが渡航予定のクラブの方々がいました。彼達とは来年再会を約束し、リターン交換のラトビアの人達とは友好をさらに深め、まさにフレンドシップフォースと感じました。

7/9 バスツアー トライダキャッスル・ミンハウゼンミュージアム

高橋 京子

トライダキャッスル

スエーデン ドイツロシアに ポーランド
 蹂躪されしも 古城誇らし
 朽ちつつも 誇らかに立つ トライダの
 紅き古城は われら見下ろし
 昔日に 古城守りし 騎士団の 塔の眺望 彼の日と同じ
 伝説を 秘めしフィールド モニュメント
 見守る空と 木々の緑よ
 彼の昔 乱れし騎士の 戦場は 今光受く 歌の祭典
 飢えもなく 戦いもなく 旅に酔う 幸せに感謝 トライダの空
 (“トライダのばら”なる乙女に)
 決然と 操守りて 命絶ち 乙女に続きし 若者哀し

ミュンハウゼンミュージアム

ラトビアに 鴨をつなぎて 空飛ばん
 男ありしを ライト兄弟知らず?
 (イエヴァとアイヴァスに)
 パルデイエンス(ありがとう) 若者二人の 名ガイド 未来を担う リガFF人

伝統を秘めしフィールド モニュメント
 見守る空と 木々の緑よ



ラトビアの 空を写して 広がれり
 水辺に憩う 東洋の民



7/10 フリーディ・フェアウエル・パーティ

岸田 節子

ホストの Maraさんは私と同じ歳、日頃は孫の世話をしてながら経理の仕事を持つキャリアウーマンです。FFに入会してまだ日も浅く今回が初めての受け入れで、大変緊張されているように見えました。

7月10日はフリーディー、夕方からはフェアウエルパーティが予定されていました。

ホストの昔からの友人 Anna(英語の達者な彼女はフリーディーにはホストと一緒に行動してくれた)の娘が以前オーストラリアで食べた寿司がとてもおいしく、自分でも作れるようになりたいと思っていたとの事、この機会に是非教えて欲しいとの依頼があり、この日を当てることにしました。

当地で寿司用の食材が揃えられるか気になりながら買物に行きました。スーパーの品揃えは圧倒される豊富さです。今日は海苔の細巻きを作ろうと決めてから、日本の食材を扱っているコーナー

で海苔、醤油、わさびを買い、その他の食材も買って娘の自宅へ行きました。

調理器具はそろっていましたが、炊飯用の器具は有りません。普通の鍋で寿司飯をうまく炊けるかがとても心配でした。全神経を集中し、何とか成功。合せ酢を混ぜた後に使いたいうちわも扇風機もなく、台所の引き出しから一番大きなプラスチック容器の蓋をもちだし扇ぎました。玉子巻、カッパ巻、鮭の燻製巻の三種類をつくり、まあまああの上上がりでした。その間、Maraと娘はメモを取り、写真を撮りと一生懸命でした。味噌汁も作りたいとの事でしたが時間も無くレシピは後でメールする約束をして帰りました。彼女が寿司米と巻簾を持っていたことには感心しました。家はリガ中心部からは車で30分ほどのところで、最近新築して越したそうです。ソ連軍跡地だったものを最近開発したという松林の中に少しは軍用地だっ

た面影を残す広い敷地に真新しい家が建っていました。

いったんホストの家へ帰り急いで準備をしてフェアウェルパーティに向かいましたが、意外に遠くパーティ開始予定時刻には1時間近くも遅刻してしまう始末でした。

会は大変な盛り上がりでした。生バンド（とは言っても演奏者は1人）付のフロアが有り、飲んで食べて歌って踊って、特にダンスタイムはみんながとても楽しそうにしていました。4時～9時と

長い時間が予定されていましたが、それでも足りずに居残りした方が居たようです。そこでは大変きれいなサンセットを見られたようです。当地の日没時間は10時半頃ですので、如何に長い時間楽しんだのかが分かります。

我々は9時頃に席を立ち、10時近くに家について1日の終わりかと思ったら、更に近所に住みFF会員で今回はニュージーランド会員のホストをしているLigitaさんの家へ行き遅くまで飲んでおしゃべりと今日もまた盛り沢山の1日でした。

7/11 11日の出来事 ラトビアに感謝

堀内 美紀子



<FFの文字も美しいケーキ>

交換7日目はホストと共に過ごした日。ホストのイレナとは再会、大きな体でできばきと自ら動き、イエス、ノーをはっきりさせる彼女の性格は私には心地よい。

昨夜のフェアエル・ディナー・パーティーはイレナが任されているGUNGAS

(www.gungas.lv)の湖の畔コテージ村が会場。ここへは3日目のリガ市内観光後ご主人のライモンズとイレナの仕事を訪ね、ログハウス内の北欧風のサウナを初体験、湖で体を冷やした場所である。この日は天気も良くラトビアの日没は夜の10時過ぎ、すばらしいサンセットを眺めることの出来る場所が近く、良い機会とライモンズはUMALAビーチまで足を伸ばしてくれることになった。プロカメラマンでもある彼は陽が沈む様の間、恥かしながら私達をモデルにし良いショットが撮れる場所を探し、私も良い画像をゲットした。

遅い朝食を摂った後、午前中の計画はブラスバンドコンサートとリガ大聖堂見学。その前にイレナの仕事の契約のため立ち寄った場所で私達は車内で待機、戻った彼女は契約が成立したので今日はフリーと喜ぶ明るい笑顔となった。

ご夫妻は仕事をしながらウエルカムパーティーの場所に自宅を提供し、さらに4人のアンバサダーのホストである。朝食は毎日違った美味しい献立を用意、お腹一杯いただいた一週間である。さぞかし忙しかったに違いないと思う。彼らが仕事の時は友人のバレンチノ〈アンバサダー3名のホスト〉に頼んだり、大きなライトバンに最高10人が乗り込みちょっとしたミステリーツアーのようなバス旅行となったり楽しい思い出となった。



<ソング・コンサート>



<茶摘み歌と手遊び>

今回は歌と踊りのお祭りの期間に合わせての交換である。2クラブ分のアンバサダーの深夜の催しのチケットをとるのに苦労したことを聞いた。そのお陰で、民族衣装を着飾った老若男女の歌、踊りの勇壮な姿を目にすることが出来た。歴史のある建物はロシアから独立後17年かけて少しずつ修復されている様子に力強さを感じた。今日はリガ大聖堂内を見学、美しいステンドグラス、大きな重厚なパイプオルガンがあり厳粛な教会だが、コンサートホールになることもあるそうだ。かつての修道院の回廊は夏場だけ見ることができるのでグッドチャンスだった。

この日は私達4人でお礼を込めて日本料理を作ることになっていた。イレーナもビーフと鮭の料理をご馳走してくれることになり大きな中央市場で買出し中、ほうれん草を探すがなかなか見つからず、ようやくみついたら8ラツツと言われた。高いなあと思いながらも差し出すお金をみて売り子さんから笑いが・・・なあんだ0.8ラツツだったと気がつき大きな違いに肩を竦めた。ちらし寿し、海苔巻き、ほうれそう草の黒ゴマあえ、シーフードカレー、ご飯、おこげおにぎり、新漬、ビーフステーキ、鮭の料理でテーブルの上一杯のディナーとなった。お世話になったダイナ夫妻を招待、甘いカレーにしていたが彼女には少々辛かったよう、お嫁さんは黒ゴマが珍しく、イレーナはほうれん草が気に入った様子。食後に孫の4歳のビビアンは庭で歌を披露し場を和やかに、楽しい夕餉となった。

深夜、ライモンズが撮った写真をCDにまとめていたので皆で見してみた。湖に入った時の写真が気にかかっていたが一安心。パッキングをして充実した1週間に感謝しながら白夜のラトビア最後の就寝となった。



<フェアウエルパーティ 全員集合>

ソウルクラブ会員との再会

佐藤 ゆきえ



<バスの中で乾杯！>

梅雨の蒸し暑さが肌に纏わりつくような6月21日、ソウルクラブの会員20名が埼玉を訪れました。昨年の交換プログラムで埼玉クラブとの交流を持ったソウルクラブの人たちが、是非また埼玉の人たちと再会したいと、山形での交換の後、わざわざ組み込んだ一泊のスケジュールでした。

宿泊ホテルが川越市内でしたが、埼玉クラブから22名の会員が川越に出向き、居酒屋での歓迎会となりました。再会を喜び合う人たちが、テーブルごとに親しく話し合い、笑いあい、また、新しく会員となって来られた人たちにも寂しい思いを抱かせないようにと気を遣いましたが、そんな気

遣いは杞憂に過ぎませんでした。誰もが旧知の間柄のように、時間の経つのも忘れ、楽しいひと時を過ごしました。

翌日の日光バス旅行にも誘っていただき、埼玉クラブから13名が参加しましたが、バスの中では、前日以上に打ち解け、別れ難くなるようなとても有意義な一日を過ごしました。

この二日間の交流により、ソウルクラブと埼玉クラブの友情は、より一層深くなったように思います。海に隔てられているとは言え隣どうしの国、個人としても、クラブとしても、この深い友情の絆が長く、長く続くことを願います。



<韓国ソウルクラブと共に日光へ>

関東ブロック会議

7月23日、関東ブロック会議が埼玉クラブの担当で浦和で開かれました。

FFIからコーディネーターのマリアム・ジョーダンさん、FFJの石井嗣代さん、東京クラブから6名、西東京クラブから4名、埼玉クラブからは9名が参加。

FFIのホームページ刷新、新ロゴ、今後の活動方針などについて、マリアムさんのお話を聞き、その後各クラブから提案された議題について話し合いました。新会員の募集やさまざまな交換プログラムを通して、FFをさらに活発にしていくこと。これが共通の目標であり、課題です。

皆さまもどうか良いアイデアを出してください。



<マリアムさんを囲んで>



変革する FFI

CHANGING THE WAY YOU SEE THE WORLD

FFI 国際本部は、設立 31 年目に入った今年、ロゴやホームページを一新し、さまざまなプロジェクトにより新たな発展をめざしています。

昨年のタイとインドネシアの教員をアメリカに招いて英語研修やホームステイを経験するプログラムは大成功でした。今後も幅広い世代を対象に、色々なテーマの文化交流や、人道的支援の交換などを広げていきたいと計画中です。

カラフルな新ロゴには、6大陸や平和 (peace) のハトの意味もこめられています。

Changing the Way You See the World(世界を見

る目を変えよう)が新しいスローガンです。FFはホームステイそのものが目的ではなく、ホームステイを通して、異なる文化への理解を一層深め、より住み良い世界を築いていくことをめざしています。

埼玉クラブは、皆さまのご協力のお陰でこれまで渡航、受入れなど順調に行なってまいりました。この一年でホームページも整い、活動の様子を知ってもらうためのちらしもできました。私たちも新しい会員を増やしつつ前進していきたいものです。(沼 純子)

会員紹介

岸田さん夫妻はFFの古いメンバーとしてこれまで多くの渡航に参加してきましたが、地域でも自治会長や民生委員として活躍しています。

FFについて感じること

岸田正二郎

昨年7月3週間余の日程で、妻と二人イギリス旅行をしました。往復の航空券とレールパス(日数は限定されるが、距離も場所も限定されない列車の乗車券)だけを持ち、(一部を除いての)訪問地、宿泊所を全く決めない放浪とも言うべき旅でした。ただ訪問地と日程を決めていたのは、2005年埼玉クラブの渡航に参加した際、我々がお世話になったホストの所2カ所です。

此の旅で強く感じたことは、旅先で知人に会える楽しさでした。二人ともロンドン市内に職を持つ Cantrel 夫妻は我々のために1週間もの休暇を取り歓迎してくれた事には感動しました。観光地やそうではない所もいろいろと案内してくれ、その中にシェクスピアの生誕地があり、彼の生家やそう遠くはない妻の生家(両方とも観光地になっている)を見た後、世界でただ一つ常時シェクスピア劇だけを上演しているというスワン劇場でマクベスを観ました。英語の下手な私には台詞は理解出来ませんが何か感動するものがあり、外国人が歌舞伎を見たときを連想したものです。Cantrel 夫妻は2005年11月オーストラリア旅行の途

中日本に立ち寄り我が家に3泊したこともあり、大変親しい間柄となっています。

クリーブランドのホストだった Elsie さんは FF 会員の友人を集め連夜持ち回りでパーティをしてくれたり、友人も同行してのドライブをしたりとこちらもまた大変な歓迎をしてくれました。Cleveland Moor では野生のベリー摘みをしたことが印象深く思い出されます。似たような関係の家族がイギリス以外にも数家族あり、このような友人を得る機会を作ってくれた FF の存在を高く評価したいと思っています。



<英国 Hertfordshire club の Cantrel さん一家と共に>



お知らせ

☆埼玉大学留学生一泊受入れ家庭募集

埼玉大学国際交流センターが窓口となり、秋に留学生の一泊受入れをすることになりました。留学生のみなさんに日本の家庭生活を味わってもらい、共に有意義なひとときをすごせたらと思います。期日や人数は未定ですが、受入れできる方はお申し出ください。
問合せ/申込み： 沼純子 Tel & Fax 048-699-4883

☆台湾の Taichung Club の受入れは4月ごろに

桜の頃という先方の希望で4月上旬になる予定です。
受入れEDは池田完之・尚子さんになりました。 追って詳しいご案内をいたします。

☆来年の役員募集

役員交替の時期が近づいてきました。
できる方には順番に理事になっていただきたいと願っております。
よろしく願いいたします。

☆Email でニュースを配信

FFIからの文書がほとんどがメールで届くようになった現在、埼玉クラブ内でもパソコンを生かして、会員の皆様にFFに関する情報をより多く、より早くお届けできればと思います。
新たにアドレスを入手された方、アドレスを変更された方は事務局までお知らせください。

編集・発行

ザ・フレンドシップフォース・オブ・埼玉 事務局

〒331-0815 さいたま市北区大成町 4-202

☎048-664-2723 FAX:048-664-2723

発行日：2008年9月16日 第72号